

在宅移行研修会 グループワーク 1 配布資料

- * グループワーク 1 開始時に、本配布資料と作業シート①を配布してください

事例検討 グループワーク

ある日、地域連携室に相談がありました

- 80歳、男性。
- 妻と2人暮らし。息子2人が同じ市内に在住。
- 2カ月前、腎機能障害のため入院。多発性骨髄腫と診断され、化学療法(抗がん剤)を行った。
- その後、誤嚥性肺炎を併発し人工呼吸器装着した。一週間、集中治療室入室を経て、一般病棟へ転床したが、その後も誤嚥性肺炎を繰り返し、抗生剤投与や酸素療法を行った。
- この数ヶ月ほとんど食事を取ることができない。
- 体重45kg、身長160cm(体格指数BMI=17.6)

事例概要

- 多発性骨髄腫による疼痛に対して、緩和ケアチームが介入し薬物治療（麻薬系鎮痛剤）を導入。また、夜間せん妄に対して向精神薬を投与し、かなり落ち着いた
- せん妄対策で、訪室時、両手にミトン装着されていた。
- 排泄・移動・清潔整容：全介助
- 食事は摂れなかったが、最近、ペースト食で訓練開始
- 医療処置：中心静脈栄養からの薬剤投与
経鼻経管栄養
酸素投与
喀痰吸引

主治医からの説明

●主治医から家族への説明

- 多発性骨髄腫の治療のための化学療法は、治療が無効であったことや全身状態から考えて、これ以上は困難
- 今後も、誤嚥性肺炎を繰り返す可能性高い。
- 自宅で誤嚥性肺炎を起こした場合、人工呼吸器装着など救命措置をとることは困難。
救急車で運んでくる間に救命できない可能性もある。
- 退院は、自宅で看取ることを視野に入れてほしい。
- （家族からの質問に答えて）予後は、3カ月くらいでしょう

多発性骨髄腫とは？

- ・ 血液を作る骨髄ががん化し、さまざまな症状を引き起こす病気です。
- ・ 症状は、①貧血、②骨折、③腎臓の機能低下（むくみや尿量減少など）などです。
免疫力も低下、感染を起こしやすくなります。
- ・ 治療は、抗がん剤による化学療法が行われます。
- ・ 本例では、誤嚥性肺炎を併発、それを元に廃用症候群をきたし、全身の機能低下が主に問題になっています。

本人・家族の希望



本人

退院を希望。形あるもの（できればステーキ）を食べたい。趣味の釣りにも行きたい。

家に連れて帰りたい。
でも…

どのように介護すれば
よいか不安。

高齢の母親に負
担がかかるのが
心配。



長男



妻



次男

家で看取ることは
考えられず、病状
悪化の際は入院を
希望。
骨髄腫の治療も可
能な範囲でしてほ
しい。

家族の意向はなかなかまとまらない。

グループワーク1

- この方に、**どんな支援**をしていくの
が望ましいか、そのために**何が必要**か、
各自検討してください（5分）
- 検討内容は作業シート①に記入してく
ださい
- グループ内で意見交換してください
（10分）

作業シート①

各自で検討、作業時間5分

1) 今後、どんな支援をしていくことが望ましいか

(在宅移行が可能かどうか、患者、ご家族の意思決定にどのように関わるか、など)

2) そのために必要なこと

(現時点で確認したり評価したりしておくべきこと、調整すべき相手と内容、予想される困難と対処方法、など自由に考えてください。)